

レポート・論文の書き方



レポート・論文には、執筆者の意見に客観的な裏付け、「根拠」が必要です。
以下では、作成する際のポイントと執筆のために必要な資料の収集方法について案内します。

レポート・論文 完成までの流れ

1. テーマを決める

2. 文献・データ収集

3. 内容の組み立て
(構成)

4. 引用・参考文献

執筆

1. テーマを決める

漠然としたテーマでは、調べて書く内容が多くなり、論点が定まりにくくなります。できるだけ範囲を狭め、焦点を絞りましょう。テーマの選択が良ければ、文献や資料の収集も容易になります。以下のようなポイントから総合的に判断し、テーマを選択しましょう。

- ①興味・関心をもった問題であるか
- ②テーマに関する十分な資料があるか
- ③時間的余裕がどの程度あるか
- ④自分の力で扱いきれるか

まずは、授業内容やテーマに関する基礎知識を把握して、どのようなテーマが考えられるか整理しましょう。図書館で所蔵している以下の資料などが活用できます。

指定参考図書

図書館2階には、授業の理解に役立つ「指定参考図書」のコーナーがあります。教員指定の図書を貸出・閲覧ができます。

新書

新書とは、文庫本より少し大きい「新書版」という形で出版される図書で、岩波新書、中公新書など各社から出版されています。図書館では2階奥の文庫・新書コーナーに配置しています。特定の分野について、入門的な内容を多く含んでいます。



2. 文献・データの収集

図書、雑誌記事、論文などを活用し、議論を裏付ける資料、テーマに関わる最新情報、重要とされる問題などの情報を収集します。主な収集方法には、二通りの方式があります。
※[DB]…オンラインデータベース

① 参考・引用文献をたどる

関連の深い基本文献を見つけて精読し、その引用・参考文献に出てくる文献や資料を集め、さらにその文献や資料の引用・参考文献からまた新しい文献や資料を収集する方式です。以下のツールなどを使って、参考文献を検索します。

大学内の資料を探す

●蔵書検索(OPAC) (大阪学院大学図書館)

OPACとはOnline Public Access Catalogの略称で、図書館にある図書や雑誌を探すことができる検索システムです。自宅やスマートフォンなど、学外からも図書館に探している図書があるかどうか、調べることができます。

●大阪学院大学学術機関リポジトリ(ogurepo)

本学およびその構成員が創造した学術研究・教育成果(本学紀要・論文・報告書など)を電子的な形式で収集し、恒久的に蓄積および保存し、広く国内外に無償で発信および提供するシステムです。自宅からもアクセスできます。

大学外の資料を探す

●CiNii Books [DB]

全国の大学・研究所の図書館の所蔵情報が確認できます。検索した資料を利用する場合は、図書館までお問い合わせください。自宅からもアクセスできます。

●CiNii Articles [DB]

日本の学術論文情報を検索の対象とする論文データベースです。オープンアクセスは本文までHPで読める論文で、自宅からもアクセスできます。

